

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 令和4年度 岐阜県立坂下高等学校 学校運営協議会 (第1回)
- 2 開催日時 令和4年6月9日(木) 13:30～15:30
- 3 開催場所 坂下高等学校 リハビリ実習室
- 4 参加者

会長	小幡 隆徳	坂下まちづくり協議会副会長
副会長	吉村 俊廣	やさか観光協会会長
委員	氷室 茂	本校活性化協議会会長
	村田 純一	坂下公民館長(欠席)
	尾石 光正	坂下中学校長
	竹入 康治	坂下小学校長
	山内 尚子	同窓会会長
	嶋倉 陽子	中津川市社会福祉協議会地域福祉課長
	桂川 容子	Charm Mates 会員
	伊藤 彩子	保護者代表
オブザーバー	森 益基	岐阜県議会議員(欠席)
	成瀬 博明	中津川商工会議所 専務理事
	岩久 義和	中津川市教育長
	伊藤 恵之	中津川市定住推進部長
	廣瀬 竜也	坂下総合事務所長
学校職員	中村 浩一	校長
	田並 千穂	教頭
	古田 和幸	事務長
	板津 裕也	教務主任
	中田 和寿	生徒指導部長
	三輪 祐太	進路指導部長
	林 尚志	地域連携担当

5 会議の概要(協議事項)

(1) 学校運営基本方針の説明【学校長、各分掌長による説明】

意見1：校内でいじめは発生しているか。いじめのない学校としてPRしてほしい。
⇒昨年度、数件認知しており、いずれも早期に対応しているため重大事案は0件である。生徒には困ったことがあればすぐにSOSが出せるように指導し、報告があれば素早く組織で対応する体制を敷いている。

意見 2 : 地域探究科の 4 コースにはそれぞれ定員を設けているか。

⇒定員は無く、基本的には本人の希望を受けて仮登録する。1 2 月の本登録に向け、生徒の進路希望も見据えたきめ細やかな指導を重ねていく。

(2) 地域連携について【学校長による説明】

(3) 学校運営全般に関する意見交換

意見 1 : 福祉科のことをより多くの人に知ってもらい、本校福祉科のよさを広めていけるとよい。そのためにも小中学校での出前授業を積極的に行い、福祉を知ってもらうきっかけとしてほしい。

意見 2 : 地域から福祉科への期待は大きいですが、入学志願者が少ない。ケアマネージャーの資格取得に本校での学びが近道であることなどをもっと P R するとよい。かつての学校に対するイメージを覆す広報力が必要である。

意見 3 : 福祉科については、進路の間口を広げるべきという意見と、国家資格取得に向けて福祉一本に絞るべき、という二通りの意見がある。

意見 4 : 中学生の段階では、福祉一本に決められないのではないかと。福祉科に入っても様々な道があるということを示してもらえるとよい。また地域探究科がどんな学科なのかということが、地域にまだ浸透していない。

意見 5 : 自分自身も本校卒業生だが、かつての時代と今とでは学校の質がすっかり変わっており、非常に落ち着いた雰囲気の学校となっている。本校の福祉科卒業生は介護現場では即戦力となり、大変重宝されている。そのような人材をできるだけ多く輩出してほしい。

意見 6 : 中学生の進路については、保護者の意向が子に与える影響も大きいと思われる。親の世代に福祉科のよさを P R するとよい。

意見 7 : 昨年の本校運営協議会で提案したインスタグラムを活用する取組も、現在大変分かりやすく発信されている。地域の方々には地域の子どもを応援したいという気持ち強い。子どもたちにもそれが伝われば相乗効果となるので、地域の方々から学び、地域と関わる自分たちの活動が地域に還元される、というサイクルが作れるとよい。「坂高マルシェ」にも期待している。

意見 8 : 今年度地域探究科への入学者が多かったのは、広報の成果である。期待して入学してきた生徒をどのように育てるかが重要である。福祉科については、福祉の学びから広がる職の広がりを提示できるとよい。

(4) 地域連携コーディネーターより

- ・地域連携の重要性と福祉科の広報について

(5) オブザーバーからの提言

意見1：先日、中津川市出身の方で東京パラリンピックにも関わった方の講演を聴き、大変感銘を受けた。障がい者に対する意識も、「援助」ではなく「共生」へと変化してきている。福祉に関するこのような講演会を催すなど、本校の「売り」は何かを考えた戦略が必要である。福祉の学校から、福祉のまち、福祉の市へと、行政も巻き込みながら、現在だけでなく近未来を見据えてビジョンを持つことが大切である。

意見2：一番大切なのは在校生の満足度であるので、足元を固めた教育活動を望む。地元の中学校から入学希望者が少ないのが本校の弱点である。中学校別に志願者数の動向を分析することで、今後の志望者数増へのヒントが得られるであろう。

意見3：地域に役立つ人材育成ができています。地域で活躍している介護職のOB等の姿を見てもらい、本校が地域に貢献できていることをしっかり伝えていくべきである。福祉科については、海外の方々が研修している現場を本校生徒が見学する等の活動を組み込むと、生徒のよい刺激になるのではないかと。中学生で福祉一本に選択するのは難しいので、出口をフレキシブルにできないか。

意見4：制度的に難しいと思うが、2年生で学科間の異動ができるとよい。

6 会議のまとめ

- (1) 今年度の学校運営基本方針について、全委員による承認が得られた。
- (2) 第1回の学校運営協議会では、地域と連携して教育活動を行っていくことの重要性について確認した。一方で福祉科志願者数の減少についての危機感についても多く意見が挙がった。地域探究科について地域への理解を広めていくとともに、福祉科の活性化につながる取組の進め方が課題である。在校生の満足感を上げ、それを効果的に発信することで、志願者数の増加に繋がれるよう、具体的な取組を次回の会議で共有できるようにする。